

[レスリング] 天皇杯全日本

フリー55kg級で稲葉準優勝

120kg級は北村3位
相内、小島、岩崎がベスト8

12月21日から23日までの3日間、天皇杯全日本レスリング選手権が代々木第2体育館で行われ、フリースタイル55kg級に出場した稲葉泰弘(経営2・霞ヶ浦高)が準優勝、同120kg級で北村克哉(商2・日本工大付属高)が3位入賞を果たした。

稲葉は初戦から準決勝まで危なげなく勝ち進み、決勝で昨年の覇者・松永と対戦した。残念ながら第1ピリオド(以下P)、第2Pともに落とし、2-0で敗れてしまったものの、前回大会の3位を上回る成績を残した。昨年7月の世界ジュニア選手権で銀メダルを獲得するなど、確実に力をつけてきており、今後も彼の試合からは目が離せない。

北村は準決勝で、専大OBでFEG所属の田中章仁さん(平16経済)と対戦。第1、第2Pともに接戦を繰り広げたが敗れた。田中さんはそのまま決勝戦も制し、同大会5連覇を達成した。

またフリー74kg級の相内寿(経済3・光星学院高)、同96kg級の尾島好洋(法4・滑川高)、グレコローマン60kg級の岩崎健太(経済4・専大北上高)がそれぞれベスト8進出を果たした。



フリー55kg級準優勝の稲葉=左(写真は決勝戦=撮影・清水)

(清水 智之・ネット情報2)

[テニス] 関東大学対抗・女子

2年ぶり7回目の優勝

女子の関東大学対抗テニス選手権が10月30日から12月18日まで、亜大ほかで行われ、専大は見事優勝を果たした。

今大会の活躍には目を見張るものがあった。決勝トーナメントの初戦から決勝までの全20試合を誰一人として敗北を喫することはなかった、という圧勝ぶり。「とにかく頂点を目指して練習してきたので、優勝できてホッとしました。チームが一丸となり、良い雰囲気です試合に臨めたのが優勝の要因のひとつ」と、中心となって新チームを引っ張ってきた石原侘奈(文3・静岡市立高)。新チームの華々しい門出となった今大会だが「これに満足せず、今後に向けて一人ひとりがレベルアップしていきたい」と力強く決意を語った。今後の大きな飛躍に期待がかかる。

(加藤 未希・文1)



新チームの柱・石原＝撮影・加藤

[バスケットボール] 全日本総合

18年ぶり学生チームのベスト8入りを果たす

全日本学生バスケットボール選手権が12月12日から18日まで、代々木第2体育館ほかで行われ、男子は今大会を4位で終え、全日本総合選手権の出場権を獲得した。個人では、大宮宏正（経済4・作新学院高）がMIP賞を受賞した。

関西大（95-57）、近大（70-65）、日大（72-66）を下し、準決勝で東海大と激突。気迫のこもったプレーで互いに試合の主導権を譲らない白熱した展開となったが、惜しくも73-77で敗退。3位決定戦では日体大と対戦。先制点から連続13得点で勢いに乗り、アウトサイドを中心に得点を量産。後半はインサイドからも得点を重ね、19点差まで引き離した。しかし第4クォーターに入ると、日体大が怒涛の反撃を始め、このクォーターだけで33得点を許し、73-77で試合を終えた。



力強いドリブルで得点源となった小淵雅主将（「4」）、左奥（「6」）は大宮（近大戦＝撮影・荻野）

試合を振り返り、新関光一総括は「インカレは学生最後の大会。まして3位決定戦はラストゲームであり、お互いに順位以上に勝って終わりたいという気持ちのぶつかり合いだった。敗因は予想以上の大量リードがもたらした安堵感」と話した。

女子は愛媛女子短大との1回戦を72-48で制したものの、2回戦で立命館大に65-67で敗れた。

全日本学生で男子4位
大宮が「MIP賞」を受賞

全日本学生選手権が12月12日から18日まで、代々木第2体育館ほかで行われ、男子が4位となり、全日本総合選手権の出場権を獲得した。個人では、大宮宏正（経済4・作新学院高）がMIP賞を受賞した。

関西大（95-57）、近大（70-65）、日大（72-66）を下し、準決勝で東海大と激突。気迫のこもったプレーで互いに試合の主導権を譲らない白熱した展開となったが、惜しくも73-77で敗退。3位決定戦では日体大と対戦。先制点から連続13得点で勢いに乗り、アウトサイドを中心に得点を量産。後半はインサイドからも得点を重ね、19点差まで引き離した。しかし第4クォーターに入ると、日体大の反撃を受け、33得点を許し、73-77で試合を終えた。

試合を振り返り、新関光一総括は「インカレは学生最後の大会。まして3位決定戦はラストゲームであり、お互いに順位以上に勝って終わりたいという気持ちのぶつかり合いだった。敗因は予想以上の大量リードがもたらした安堵感」と話した。



女子は愛媛女子短大との1回戦を72-48で制したが、2回戦で立命館大に65-67で敗れた。

（荻野 敦子・文1）

[バドミントン] 関東学生新人・女子ダブルス

木村・梨木ペア優勝 団体戦は準優勝

11月20日から12月19日まで、関東学生バドミントン新人選手権が日体大健志台米本記念体育館ほかで行われ、女子ダブルスで木村綾(経営2・金沢向陽高)・梨木春花(商2・金沢向陽高)ペアが優勝を飾った。また、富永絢子(商2・越谷南高)・井上まり(文1・越谷南高)ペアが3位。シングルスでも、富永、井上がそれぞれ3位入賞。2複1単で行われる団体戦(ランクA)でも準優勝を果たすなど、好成績を取めた。

(橋本 麻未・経済2)

[ゴルフ] アジア大学選手権

18年ぶり学生チームのベスト8入りを果たす

日本、韓国、台湾の代表によるアジア大学ゴルフ選手権（11月29日～12月1日、韓国・中文ゴルフ倶楽部）に林佳世子（経営2・立正高）が出場した。

3日間トータル250ストロークで個人6位と健闘し、日本女子の団体優勝に貢献した。「風が強く寒かったので大変でしたが、初の海外で勉強になりました」と話した。



左から2人目が林

[スキールペン] つべつカップ回転

清澤1、2戦とも制す 安田は準優勝、3位

つべつカップ回転競技大会(アルペン)が12月11、12日の2日間、北海道津別町で行われた。清澤恵美子(経営4・歌志内高)が女子回転で第1戦・第2戦ともに優勝、安田かずみ(経営2・歌志内高)が第1戦で準優勝、第2戦で3位入賞を果たした。

「津別は得意のコースではなかったが、いつもよりうまく滑れた。自信にもなったしシーズン初めに幸先の良いスタートが切れて良かった」と話す清澤。続くJALカップ阿寒スラローム選手権(12月20、21日、北海道阿寒町)でも、最終日に行われた女子回転で見事優勝し、今シーズンを期待させるスタートダッシュをみせてくれた。



シーズン初めに好スタートを切った清澤(写真提供:津別町役場)

(澤田 和輝・法2)

[スピードスケート] 浅間選抜 男子1000メートル

依田が優勝 ワールドカップヘアピール

浅間選抜スピードスケート競技会が12月2から4日まで、長野県の浅間温泉国際スケートセンターで行われ、男子1000メートルで依田幸一郎(経営4・佐久長聖高)が見事優勝を果たした。ただ「うれしい」と控えめに語ったが、この大会はワールドカップ派遣選手選考を兼ねているため、大きなアピールになったのは間違いない。

また、12月20日から22日まで、長野県のエムウェーブで行われた全日本選手権では、500メートルで5位に入賞。今シーズンの健闘を期待したい。

(澤田 和輝・法2)

[アイスホッケー] 関東学生リーグ戦

前年上回る7位

関東大学アイスホッケーリーグ戦が10月8日から12月11日まで、サントリー東伏見アイスアリーナで行われ、専大は前年を上回り7位となった。

「今年は上位へ食い込めなかったが、高い目標を目指して頑張ってもらいたい」と後輩にエールを送る佐藤優主将(商4・苫小牧東高)。1部に復帰して2シーズンを終え、確実に前へ進んでいる。

(中川 泉穂・文2)

[馬術] 全日本学生

森、5位入賞

全日本学生馬術選手権が12月3、4日にJRA馬事公苑で行われ、森裕悟主将(商4・関東第一高)が5位に入賞した。

1、2回戦は鮮やかに高得点を叩き出し、順調に勝ち進んだ。しかし、準決勝は馬場馬術で上位組から一步離されてしまい、障害飛越で巻き返しを図ったがわずかに届かず、敗れた。

「緊張は無理に抑えず、良いイメージで試合に臨むようにしていた」という森主将。今大会で学生としての試合を終え、「結果を得るだけでなく、自分を伸ばすための充実した4年間でした」と話した。

(加藤 未希・文1)

《国際大会出場選手》

◇レスリング部

岩崎 健太、稲葉 泰弘、北村 克哉 デーブシュルツ国際大会(1月30日～2月7日＝米国)

《記録コーナー》

◇テニス部

▽全日本学生室内選手権(12月1～10日、尼崎記念公園総合体育館ほか)【女子】シングルス・石原伶奈＝ベスト8、ダブルス・石原・相羽望(文1・秀明英光高)ペア＝ベスト8【男子】シングルス・松村亮(文4・広陵高)＝ベスト16

◇スキー部

▽糠平温泉GS大会(12月17、18日、北海道糠平温泉)女子の部・安田かずみ＝1日目4位、2日目5位

▽菅平高原カップ(12月24、25日＝長野県菅平高原)女子回転・船渡千裕(法3・高山高)＝3位